

編集室紀行

日本看護学教育学会、
千葉・幕張で開催！

来る2014年8月26日(火)・27日(水)、千葉県幕張メッセ国際会議場にて、「日本看護学教育学会第24回学術集会」が開催されます。今回のテーマは「関連学会の知とともに創りだす看護学教育」です。集会長を務める順天堂大学大学院医療看護学研究科の村中陽子教授は、「今回の学会は広い視野での参加者間の活発な議論が生まれる場にしたい」との思いで、このテーマを選ばれました。



学術集會会長 村中陽子順天堂大学教授

村中教授は、教員が一方的に知識を発信し、伝えようとするだけの教育ではない、学生自身の学ぶ力を育む授業を重要視しています。能動的に、自ら調べ学ぶ力は、生涯学習していくことが求められる看護師にとって、まさに身につけるべき力です。

では、実際、どのような授業で、その力は養われるのでしょうか。学術集會会長講演のテーマ「学習システムとしての教授方法を考える」は、そうした課題に取り組むものです。看護という枠組みを超えて、エビデンスに基づいた、教育界全体で話題となっている授業方法についてのお話です。学生も教員も、1人ひとり資質や能力が違うのは当然ですが、教員それぞれの個人的経験や個人的取り組みだけでは、理想とされる教育目標の達成はできにくいものです。「学生の自ら学ぶ力を養う」という大きな目的のために必要な、教員全体の能力を向上させる学習システムがテーマです。看護教育に携わるすべての人にとって、これからの教育を考えるうえで、重要な示唆が得られることにちがひありません。

予定されている教育講演は、いずれも必見の内容となっています。思考力育成に関する教育などが専門の大阪大学大学院人間科学研究科の三

宮真智子教授、人材管理についての著作を多くもつ東京大学大学総合教育センター中原淳准教授、電通退職後、コンサルタント会社を設立され、昨年まで順天堂大学スポーツマネジメント学科にてマーケティングコミュニケーションを専門にしていた早稲田大学留学センター客員准教授の山田満先生と、それぞれ「教育心理学」「人材管理」「キャリア形成」のスペシャリストです。各専門家による、教育と密接にかかわる講演は、看護教育を考える上でのヒント、刺激をきくと与えてくれるはずです。

他にも、シミュレーションを用いた学習の具体的な運用や、アメリカでの医療安全に基づいた教育改正など、充実した講演を多数用意されています。

また、関心領域の発表を十分に聞き活発に議論することができるよう、スケジュールは同時間の同領域の重複を避けられているほか、講演集はPDFでダウンロードでき、モバイル端末での閲覧が可能な仕組みも取り入れられるなど、参加者への便宜が随所に図られています。

教員として実りある夏になるよう、日本看護学教育学会(幕張)へ是非足を運んでみてください！

(本誌編集室)